

# 区長との懇談会開催

令和4年10月19日（水）に、区役所内で区長との懇談会が開催されました。



区役所側からは、区長をはじめ、副区長、総務課長、区政推進課長、地域振興課長、地域振興課資源化推進担当課長、福祉保健課長がご参加くださり、区民協議会からは、代表委員、各部会長が参加しました。

今年度は、副区長はじめ、関係するすべての課長が異動で新しい方になった関係上、区民協議会についてご説明するところから始めました。その後、懇談会に先立ち、各部会から質問事項を提出していたものについて、意見交換を行いました。

「地域の活性化の会」は、「神奈川区地域づくり大学卒業生と地域の連携が十分ではないと考えるので、連携を深める取り組みについてお聞かせください。」と事前質問しました。

区長からは、神奈川区は区連会が募集のところから全面的に応援して下さるので成功しているのではないかと、地域にどうやって知ってもらうかが課題であり、区政推進課を中心にケアプラや区社協と相談しながら効果的なやり方というものを考えていきたいとのご意見がありました。

「ごみと環境の会」は、「公園等に設置されている『市内全域ポイ捨て禁止』看板の効果や市のポイ捨て・喫煙禁止条例の取り締まり違反者への対応や成果について教えてください。」と事前質問しました。

まず、資源化推進担当課長から、看板設置は抑止的效果であること、罰則は警察の所定手続きが必要なので現状では例がないことの説明とともに、現在は巡回を行い注意するという形にシフトチェンジしており、指導をすると歩きたばこをやめてくれるとのお話がありました。

区長からは、強制的には難しいことと、先日のマナー違反一掃大作戦で思った以上にごみがあったこと、また、専門学校の若い人たちが協力してくれたことについてお話がありました。若い人が実際に町の現状をみることで、どういう風に行動していくべきかを感じるところがあったのではないかと、ごみと美化について特に若い方中心に知っていただくことが大切とのことでした。

「なまずの会」は、「区長がお住まいの区と比較して神奈川区の防災をどのようにお考えか、神奈川区の良い所、足りないところをお聞かせください。」と事前質問しました。

区長は南区にお住まいで、距離的にも神奈川区に近いと、災害に関しても似たような感じとのことでした。市の職員は防災に対する優先順位はほぼトップであるそうです。阪神淡路を見ても、いざという時に行政のできることはほとんどなく、災害の現場に近いのは市民の

方だと思うので、そこで何とかやっていただき、生き延びたら地域防災拠点で次の期間を過ごしていただく、そういう意味で地域防災拠点の備えを運営委員会の方と一緒にやるということに重点を置いているそうです。

総務課長からは、25 拠点ある中で、地域も町会も特性がそれぞれあり、熱心にいろいろ活動ができている拠点や町内会がある一方で、無関心な方が多く、委員だけが困っているという、熱心さや蓄積された経験等が違うところがある、熱心なところは自分たちで変えていけるので、そうではないところに丁寧に支援をして区全体の底上げを図りたいとお話がありました。

「桜を育てる会」は、「子ども・子育て世代と高齢者が日常的に交流できる『多世代交流』の場所や行事が各地域に必要と考えますが、これらに対する神奈川区の施策・支援策についてお聞かせください。」と事前質問しました。

区長からは、同意見であるとのこと、自分と同世代との付き合いも大切だが、先輩の世代や若い方との触れ合いによって学ぶことができ、それまでと違った価値観とか活力が得られると思うとお話がありました。

福祉保健課長からは、区で独自に行っている事業や補助制度はないこと、神奈川支えあいプランの地区別計画で子どもをテーマにした目標がかなりあるということの説明してくださいました。

様々な意見交換ができ、今後の部会活動の充実につながる良い機会となりました。  
区民協議会は、今後も行政と区民とをつなぐパイプ役となれるような活動をしていきます。

